

写真で見る かすがい

3/10 (日)

75周年の集大成 子どもたちと未来へ (グルッポふじとう)

市制75周年を振り返るとともに、子どもの未来を応援するイベントとして開催した「未来へ」。会場では消防や警察などの職業体験をはじめ、ニュースポーツ、漫才・マジックの体験教室など、多くの催しが行われました。

イベント終盤には、市制75周年を祝う菓子まきを実施。体育館はたくさんの家族でにぎわい、未来を担う子どもたちの笑顔があふれるイベントとなりました。



4/5 (金)

新入学児童の 安全安心を願って (松原小学校)

市は毎年、交通事故防止と防犯対策推進の一環として、全ての新小学1年生に黄色い帽子と防犯用ブザーを贈っています。

今回は松原小学校で贈呈式が行われ、市長と警察署長から児童にお祝いと交通安全を呼び掛けるメッセージが送られた後、108人の児童一人一人に黄色い帽子が贈呈されました。

児童は、市長、警察署長、教育長、校長から黄色い帽子をかぶせてもらおうと、満面の笑顔を見せ、これから始まる学校生活へ期待に胸を弾ませていました。



「平成」から「令和」へ

新しい元号が「令和」に決まり、新たな歴史が始まりました。

平成は、皆さんにとってどんな時代だったのでしょうか？

私は家族構成が変わり、会社員から市議会議員、市長と生活環境も立場も大きく変わる中で、常に全力で走り切ったように感じております。

平成の時代を振り返りますと、元年には消費税が導入されました。また、合計特殊出生率が当時戦後最低の1.57となるなど、少子高齢化社会が現実になってきました。

政治の面では、元年の参議院議員通常選挙で与野党の議席が逆転し、4年後には8党派による連立政権が誕生しました。その後も政権交代や連立政権発足が起きました。

社会の面では、コンピューターの急速な進化により、通信手段がアナログからデジタルへと変わり、情報が瞬時に世界につながる時代となりました。ロボットやスマートフォン、AIに象徴されるように、技術の進歩は驚くほど著しいものがあります。これからの生活様式がどのように変わっていくのか想像すらできません。

誰もが望む、便利さや豊かさが大きく進んだ良き平成の時代ではありましたが、一方では、個人が優先されコミュニティが希薄となる中、阪神・淡路大震災や東日本大震災をはじめ大きな自然災害が全国各地で発生したことで、救援や復興での共助の大切さが改めて身に染みしました。

「令和」は、現存する日本最古の歌集「万葉集」から引用されたとの説明がありました。令和の時代が、便利さや豊かさとともに環境や人に優しく、お互いを認め、助け合う、日本の良き伝統を醸成する時代になることを願っています。

創 春日井

2019 想



市長 伊藤 太